

生活科における授業づくりのポイント

伊藤 将記

1 生活科における主眼について

生活科では、授業の主眼を二つの観点から書きます。一つ目は、内容（特に何に気付くのか）【知識及び技能の基礎】です。二つ目は、その内容（気付き）を捉えるための見方や考え方、活動【思考力、判断力、表現力等の基礎】を書きます。

○ 主眼1の作り方の例

主眼1 ～は、～ということに気付くことができるようにする。

【第2学年単元「とび出せ！町の たんけんたい」における、主眼1（知識及び技能の基礎）の主眼の例】

①内容の焦点化（単元）

小学校学習指導要領解説（p33）

内容（3）地域と生活 ※下線部が「知識及び技能の基礎」を表す。

地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

本単元での主たる学習対象は「⑦地域で生活したり働いたりしている人」であり、解説書における本単元での対象への気付きは以下の2つである。

- ①自分の身の回りには様々な場所があることに気付くこと
- ②そこには様々な仕事があり、それらの仕事に携わっている人がいることに気付くこと

②内容の焦点化（本時）

「そこ」……附属小学校の周りがある場所の中で、
本学級の児童の実態及び教科書に提示してあるものから教材としての価値のバランスを図って選んだ場所
「様々な」…それぞれの場所ごとに違った
「仕事」……その場所において、そこにあるものを使ったり、使わなかったりして行っていること
「それらの仕事に携わっている人たち」
…それぞれの場所で働いている人たち

私たちが通っている附属小学校の周りがある花屋、パン屋、ラーメン屋、菓子店で働いている人は、様々なものを使いながらそれぞれの商店ごとに違った仕事をしているということに気付くことができるようにする。

○ 主眼2の作り方の例

主眼2 ～について、～を表現したり交流したりして、～を考えることができるようにする。

【第2学年単元「とび出せ！町の たんけんたい」における、主眼2（思考力、判断力、表現力等の基礎）の主眼の例】

①生活科の特質から

小学校学習指導要領解説（p74～77）

生活科の学習指導の特質第4

表現したり、行為したりすることを通して、働きかける対象についての気付きとともに、自分自身についての気付きをもつことができるようにする。

気付きの質を高めるため（＝主眼1を達成するため）には、気付いたことを言葉・絵・動作・劇化などによって表現して伝えたり、交流したりすることが大切である。

③子供の実態から

- ①気付いたことを絵に描いたり、吹き出し等を使って言葉で書き表すことができるようになってきている。
- ②発達の段階から、「こう」「このように」などの言葉+動きで目の前の様子を伝えようとする子供が多い。

②内容から（単元→本時）

小学校学習指導要領解説（p33）

内容（3）地域と生活 ※下線部が「思考力、判断力、表現力等の基礎」を表す。

地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

【単元】地域に出掛け、地域で生活したり働いたりしている人々の姿を見たり話を聞いたりするなどして、地域の場所や地域の人について考える。

【本時】地域の場所にあるものとその場所にある人の行為について考える。

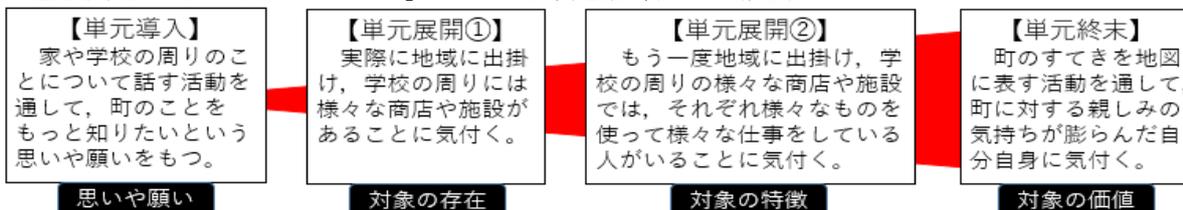
町探検で訪れた商店の中で見つけた「もの」や、働いている「人」の様子について絵や言葉、動作で表現したり交流したりして、私たちの町で働いている人が携わっている仕事について考えることができるようにする。

2 生活科における単元指導計画について

生活科では、具体的な活動や体験を通して単元全体で気づきの質を高めていくことが大切です。

生活科では、学習対象に対する思いや願いをもち、その思いや願いに基づいて活動や体験を行う中で「対象の存在（固有の特徴）」、「対象の特徴（固有の特徴同士の関係性）」、「対象の価値（本質的な価値、自分との関わり）」へと気づきを高めていくことができる単元指導計画を立てます。

※「とび出せ！町のたんけんたい」における単元指導計画の概要



3 生活科における一単位時間の学習過程について

生活科では、活動や体験を通して得た気づきを、言葉・絵・動作などによって表現し交流しながら気づきの自覚を図って確かな認識にしたり、気づきの量を増やしたりして高めていきます。

○ 一単位時間の学習過程（波線は、ICT活用）

段階	子供の活動	○教師の具体的支援
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの気づきや単元を貫く思いや願いを想起し、本時学習のめあてについて話し合う。 <p>めあて（思いや願いに基づいた活動）～しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの気づきや単元を貫く思いや願いを想起させるために、<u>前時までの活動の写真や動画を板書や学習者用端末を活用し視覚的に提示する。</u>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○（単元の中での本時の位置付けに応じて）思いや願いに基づいた活動の見通しをもつ。 ※ 単元初めは、見通しが明確ではない活動や体験が多いため、この段階に重きは置かない。 ○ 思いや願いに基づいて活動を行う。 ○ 対象への気づきを交流し、それらを分類したり、関連付けたりする。 <p>まとめ □□は…である（…することができた）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供が好奇心や探求心を発揮しながらも安全に活動させたり気づきの交流をスムーズにさせたりするために、活動のきまりや約束を確認したり、気づきの記録方法を確認したりする。 ○ <u>友達の気づきを取り入れたり自他の気づきを結び付けたりさせ、気づきの量を高めさせるために、気づきを共有し、分類する場を設定する。</u>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容を振り返り、今後の対象への関わりに対する意欲を膨らませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元を貫く思いや願いを意識させるために、板書や流れ図を提示する。

4 生活科の学習過程における ICT の活用について ※ ICT の活用が目的にならないように気を付ける。

